

Rainbow

～六中ユニバーサルデザイン～

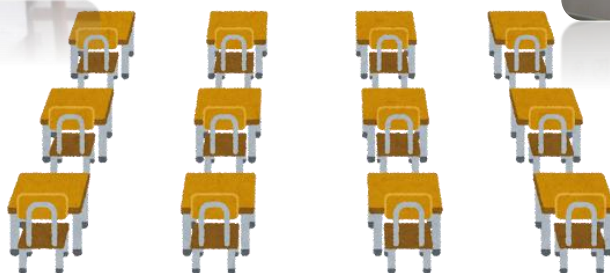
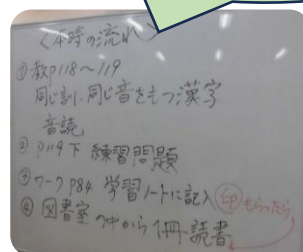


校内通級教室では、今年度も学校全体のインクルーシブ教育の構築に向けて取り組み、この「Rainbow」で様々な情報をお伝えしていきます。今月は令和7年度最終号という事で、校内におけるユニバーサルデザインの取り組みについての簡単なまとめと、「集団課題と自己課題」についてお話しします。

カーテンを使用し、
授業に集中しやすい
環境づくりを行いました！



ホワイトボードを設置し、
授業の流れと狙いを
常に可視化しています。



注意

- 1 問題は①から⑤までで、0ページにわたって印刷してあります。
- 2 試験時間は50分です。
- 3 声を出して読むではいけません。
- 4 答えは全て解答用紙に明確に記入しなさい。
- 5 ひらがなの解答も認めますが、漢字で書くことを推奨します。
漢字が不安な場合は、“かな”をふってください。
その場合は、“かな”を優先して採点を行います。
漢字のみの解答で、漢字が間違っている場合は正答とはなりません。
- 6 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 7 組、番号、氏名を問題用紙と解答用紙の決められた欄に記入しなさい。

定期試験では
国語以外の教科は
解答に漢字指定を
していません

教室掲示を分けし、
掲示物の場所を
わかりやすくしました！

書字が苦手な生徒のため
に、黒板の撮影が許
可されています

撮影のルール

- ① 今まで通り、板書をノートやプリントに書き写す。
- ② 時間が間に合わない場合、自分のクロームブックで撮影する。
(教科担当の許可がなくても撮影可能。)
- ③ 板書のみ撮影可能
- ④ タイミングを見ながら、撮影する。

本校ではこのほかにも様々な取り組みを行っています。詳しくは第六中学校 HP よりご覧ください。

集団課題と自己課題

学校では「本人の課題です。」という言葉をよく使います。「課題」という言葉を辞書で調べると、「ある目標を達成するために、取り組まなくてはいけないこと」とあります。今回は「課題」について、本人だけでなく、保護者や教師などの支援者側も理解しておいた方が良くと思う「集団課題と自己課題」について触れてみます。

「集団課題、自己課題」という言葉は、私自身が勝手に使っている言葉なので、正しい言葉なのかどうかは分かりません。集団課題とは「集団に影響を及ぼしてしまい、個人だけではなく集団にとっての課題になるもの」という意味です。例えば、「授業中に落ち着かず、他者に興味が行くためにちょっかいをかける。」「大きな声で私語をする。」

「衝動性が強いために他人に暴力をふるう（言葉も含む）。」などが相当します。この集団課題は特性だから仕方がない、大目に見るといふ類で処理されて良いものではありません。医療の世界でも「CVPPP（包括的暴力防止プログラム）」というものがあり、暴力行為が起きないように方法を取ると同時に、それでも暴力行為が起きた場合には、例え重篤な精神疾患があったとしても毅然と対応するそうです。「他者に迷惑をかけないように努力する」「ならぬものはならぬ」は特別支援であっても何ら変わりはありません。本人の気持ちどうこの次元の話ではなく、指導においては反省を促して一刻も早く改善を促し、本人への事態の理解促進や気持ちのケアをすることになります。

一方、自己課題ですが、簡単に言えば「周囲に迷惑をかけるものではなく、できないと自分が困るもの」です。整理ができない、忘れ物が多い、時間の見通しを立てるのが苦手、などが該当します。又、学習での課題も自己課題の一つと言えます。「こうすべき」と向かうべき姿の指導はありますが、特別支援に限って言えば、本人の対応する意欲に寄り添うのが基本になります。自分が改善したいから支援をして欲しい、という支援ニーズがあって初めて成り立つものです。集団課題とは違って、早急で強制的な対応ではなく、本人の気持ちやペースに合わせて、できることからやっていくわけです。

「そんなことを言っても、うちの子はいつまで経っても自己課題に取り組もうとしない」なんて保護者の方々の嘆き声が聞こえてきそうです。そうであっても周囲が支援としてできることは、本人の取り組み意欲の喚起であって、親が代わりにやるものではないし、教師が強制的な指導や支援をするものでもありません。

「花が咲き、実をつけるのは花によって違う」のです。いつ、本人が自己課題を意識するかは人によりけりです。それは自分の力でやらなければ意味がない、とも言い換えられます。保護者や教師は「その気になるような仕掛け」をしたいところです。どんな促し方ができるのか。生徒によっても一人一人違い、それが特別支援の「永遠のテーマ」であると感じます。気長に大きく見てあげて、もし改善に向けて動き出せたら、どんなに小さいことでも認めてあげたいものです。

<文責 □□>